

m a e n o h a

maekawa living magazine まえのは

2023

—
初
夏
号

山のふもと。海のかおり。



鮓処 板はし

(立山町)

訪ねた人：茶木 均

木の香 株式会社 前川建築 専務取締役

日々、手をかけ、心をこめ、
忘れられない美味しさを。

富山では、この土地ならではの歴史や風土を受け継ぎながら、日々、新しいまちの魅力が創り出されています。前川建築のスタッフが、仕事や暮らしの中で出会った魅力的な方たちをご紹介しますこのコーナー。第4回は、立山町にある鮓処「板はし」の店主・板橋潤一さんを、前川建築の茶木均が訪ねました。

店内に足を踏み入れると、ゆったりとした空間が広がり、窓から明るい光がたっぷり入り込んでいる。この心地いい空間で、一目を引くのが、多種多様なネタが並ぶ美しいネタケースだ。

ここが、板橋潤一さんが奥様と二人三脚で営んでいる鮓処「板はし」。常に約20種もの新鮮なネタを揃えるために、できるだけ地物を使う。養殖は使わない。そうした信条を持つ板橋さんは、毎朝5時頃に起床して魚を仕入れている。地物の魚が集まる魚津の魚市場に足を運び、富山湾で獲れないウニやマグロなどを仕入れるために富山市公設地方卸売市場にも足を伸ばす。店に戻るのは7時前後。シャリを炊き、掃除や洗濯、魚の仕込みなどをして11時半の開店を迎える。ランチタイムが終わった後も夜に向けて魚を仕込む。「最も大事にしているのは、その食材を一番美味しい状態で提供すること。ネタ一つひとつの仕込み方を考えなければいけま



「板はし」を建てる際、自身で図面を書いて思いやイメージを伝えたという。



何事もできるだけ自分の手をかけ、心を込めることが板橋さんの信条。



魚津漁港で仲買人と電話などでやりとりをして競り落とした地物の魚も。



初めて「板はし」を訪れた茶木は、「ネタケースがとてきれいで、食べずして美味しさが分かりますね」と笑顔。

好きな言葉は、今は亡き祖父様の「最後に頼りになるのは自分だけ」と友人の口癖「ケセラセラ」。



せん。生のまま提供する際もそれぞれ仕込みが異なります」と寿司への思いを語る板橋さん。茶木はその話に頷きながら、「弊社も今年から国産材のみで住宅を建てるという試みを実施しています。また、丁寧な仕事へのこだわりも、板橋さんの寿司に對する思いと通じるところがあるなと思いました」と微笑む。

「板はし」は、2000年にオープンした。岐阜県生まれの板橋さんは地元の高校で建築を学び、東京の建築会社に就職。だが、高校生の頃から心の片隅にあった板前への夢を忘れられず、20歳

の時に寿司の道へ足を踏み入れた。富山市内の寿司店で約16年修業を積み、夢を叶えたのは36歳の時だった。現在の店舗を建てた後には井戸を掘り、今も魚を仕込む時や米を炊く時などに立山湧水を使用している。「年中適温なので、水道水とは全然違う。素晴らしい水です」

板橋さんの自宅も立山町にある。ご両親、奥様、娘さんの5人暮らしだ。休日の日中は大好きなオートバイで出かけることが多いが、夜は必ず家族で食卓を囲むという家族思いの人でもある。「料理人は休日に料理をしないと言いますが、僕は料理をするのがすごく好きなんです」とタンシチューやカニ鍋など豪華な料理を家庭でも振る舞っている。

器も好きで、何年かに1回は旅行がてら信楽や常滑、伊賀などの窯元を訪れ、器を購入。そのほとんどは今、寿司や料理を引き立てている。また、バイクで出かけるのも食材を探すため。

ている。

長野や能登などにある道の駅が目的地だ。休日もどんな時も大好きな料理のことが頭から離れない板橋さん。根っからの料理人といえよう。

実は前川建築代表の前川守は、「板はし」ファン。バイク好き同士で話が盛り上がることも多いという。「バイクで絶景を楽しむながら走ると、かなりリフレッシュできます。仕事が忙しくて乗るのをやめていた時期もありましたが、奥さんが『少しは気を抜かないと。また乗ったら』と勧めてくれて」と微笑む板橋さん。ご主人を思う奥様の優しさも「板はし」の美味しさを支え

立山町の魅力の一つといえよう。「今は回転しない寿司屋が少なくなってきているので、後継者を育てられたらいいなと思っています。寿司屋をやりたい人がいたら技術を教えたいですね。そして、おじいちゃんになるまで仕事をすることが目標です。私の尊敬している寿司職人は80歳過ぎて現役なので、その年齢くらいまで働けたらいいな」と未来を笑顔で語る。

板橋 潤一
Itahashi Junichi

昭和38年1月24日、岐阜県出身。中学の先生の勧めで高山市にある工業高校・建築科に進学。卒業後、東京の建築会社に就職し、鉄筋コンクリート造の配筋計算などをしていたが、夢を忘れられず20歳の時に親戚が住む富山へ。富山市の寿司店で約16年修業を積んだ後、2000年に「板はし」を開店。



8代目のバイクは、イギリスのメーカー「トライアンフ」の「ボンネビル」。



熟練の包丁さばきで手早く美しく仕上げていく板橋さん。



開店から今年で23年目。その間、何ひとつ値上げしていない。



立山町で育った花が、立山町で育った「板はし」を美しく彩る。



Google MAP

鮓処 板はし

〒930-0229 富山県中新川郡立山町前沢新町577
Tel.076-462-7887
営業時間／11:30～13:30、17:00～21:00
定休日／火・水曜日 駐車場／あり



地元の越前瀬戸焼の作家・釋永由紀夫さんの器は、毎日使うほどお気に入り。



寿司はもちろんのこと、卵焼きや大根のつま、カンピョウなども手作り。



ネタの仕込み方を考え、その食材によって常にベストな美味しさを引き出す。



5 May

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
	1	2	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

6 June

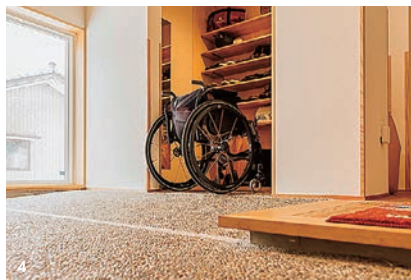
sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

7 July

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17 海の日	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

8 August

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11 山の日	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		



1 ガレージからすぐLDKに入れるため、食料をたくさん買い込んだ時にかなり便利。雨や雪に濡れることもない。2 開放感と一体感がご家族のつながりを深めるLDK。3 「庭の本をよく読むようになりました」と話すご主人の愛読書。庭づくりの道具も活躍中。4 車椅子の人が住むいかにもバリアフリーな家を選けたかったご主人。その一つ、さりげない玄関。5 ご主人の愛車。ロックローリングの大会では優勝も。6 ウッドデッキの軒を彩る雨樋。「雨がたつたのを眺めているのが好きなんです」と奥様。7 炎が見える今の薪ストーブは、電気代高騰を見据えて2022年11月頃に買い替えた。



人の友人家族が集まり、料理やお酒、会話を楽しむという。また、LDKの窓の向こうにあるウッドデッキも遊び場。夏には家族や友人とバーベキューを楽しんだそう。豊かな自然に包まれ、他の目を気にすることなく、のびのび過ごせるのがいい。

ご夫妻の心境の変化はまだある。二人とも自分を見つめ直し、それぞれに新たな道を歩み始めたのだ。奥様は「この家に住んでから手に職をつけたくなって」と、ネイリストを目指してアルバイトと資格取得の勉強に励んでいる。すでに転職したご主人は、プライベートで庭づくりにハマった。専門書を読み、ヤマザクラ、コナラ、イヌシデ、ヤマモミジなどを植え、手入れに励んでいる。

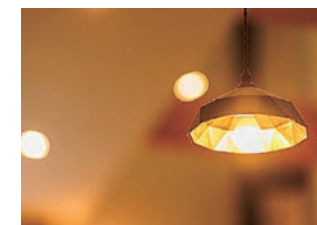
自分の好きなものを見つけたご夫妻には大きな夢がある。購入した土地を活用して庭とネイルサロンを作ることだ。生き生きとしたご夫妻の姿は、息子さんの未来をも明るく照らすのだろう。



tips:3
“椅子の神様”といわれるハンス・J・ウェグナーが1969年にデザインしたデンマーク ゲタマ社製「GE375」ハイバック2シーターソファ。



tips:2
富山市のインテリアショップ「ARTREE」で購入した絵画のようなオールドギャッベを、玄関マットとして使用。



tips:1
奥様のお気に入りのペンダントランプは、高岡銅器「FUTAGAMI」の「明星」。真鍮の伝統的着色技法によって金属の表情に温かみを演出。

ゆらめく赤い炎。その美しさと暖かさに吸い寄せられるように、ご家族が薪ストーブのそばに自然と集うY様邸。「それほど寒くなくても、つい炎が見たくなって(笑)」と、ほぼ夏以外は稼働している状態だ。

薪ストーブと同様に、シンブルな空間に調和しながらも存在感を放つヴィンテージソファもみんなのお気に入り。夜には、息子さんがそのソファで寛いだり、ご主人がダイニングでビールを飲んだり、奥様が薪ストーブの前で温まったりと、同じ空間で一人ひとりが思い思いに過ごしていることが多いという。「家族をそばに感じられるオープンな一体感が好きですね」と奥様。

写真には写っていないが、保護猫のトラも大切な家族だ。引き渡しの翌月に仲間入りした。

「ここに暮らし始めてから外出しなくなり、家で遊ぶようになりましたね」とご夫妻。主な遊び方は、ホームパーティである。会場はLDK。多い時には約10

住まい手募集モデル住宅

HAIKEI

6/3[±]
オープン



住まい手募集モデル住宅「HAIKEI」が舟橋村に2棟同時オープン

舟橋村東芦原のバレットタウン東芦原にて「HAIKEI」モデルハウス2棟が6月3日(土)にオープンします。設計士と大工が未来へ残したい「家のカタチ」を、住まい手に送る「手紙」に見立てました。舟橋村の2棟は常設展示場として公開いたします。現在、住まい手さまを募集中。身近にお住まいをご計画の方がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。(担当:茶木)

見立てました。舟橋村の2棟は常設展示場として公開いたします。現在、住まい手さまを募集中。身近にお住まいをご計画の方がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。(担当:茶木)



小学生
対象

楽しく学ぼう!家づくり体験
こども工務店
富山2023開催

6/18^①
10:00~16:00



お申し込みはこちら
(5月中旬より)

昨年、3年ぶりに開催された大好評のイベント、建築職人体験「こども工務店」を今年も開催します。小学生のみなさん、家づくりの職人体験を通して、モノづくりの楽しさをぜひ知ってください! 5月中旬よりWebサイトのフォームから参加受付を予定しています。

ごくらくマーケット 出店者募集のご案内

MAEKAWAグループの(株)縁溜が運営する、水橋温泉「ごくらくの湯」で初めてのフリーマーケット、「ごくらくマーケット」を9月10日(日)に開催します。趣味でハンドメイドをしている方や作品づくりしている方、展示・販売してみませんか? 出店経験がない方でもOK。出店料は無料で気軽にご参加いただけます。ご興味がある方は下記までご連絡ください。



担当: 前川建築 076-462-0611(担当:河岸)
縁溜・ごくらくの湯 076-479-1359(担当:江間)

オーナーズクラブ会員様向けにLINE公式アカウント開設

MAEKAWAグループの様々な情報をいち早くお知らせする、オーナーズクラブ会員専用LINEアカウントを開設しました。イベント等の参加お申し込みも簡単です。ぜひ、友だち登録してください。



スタッフ紹介

MAEKAWAグループのスタッフに、休日の過ごし方や、お気に入りのモノ・コトを聞きました。

Tsuda Go
津田 剛

● コノカアドバイザー(営業)

16歳の時に使い始めた野球のグローブは今も現役。物を捨てるのがあまり好きではなく、大事にするように心がけています。約7年前、妻と一緒に男女兼用の服を買い、2人で着回すことにしました。以来、妻との買い物が趣味になり、できるだけ兼用できる物を購入しています。春には富山市のいたち川沿いの桜並木を、子どもと一緒に歩くことも暮らしの中の大きな楽しみです。仕事では、木材加工機の使い方をマスターして、現場でのゴミの削減と木屑の二次利用を考えていきたいと思っています。



お気に入り

会社にある3種類の薪ストーブは、空気の調整方法や火のつきやすさがバラバラで、それぞれに個性的。まるで人のように見えて、すごく面白味を感じます。

家族はもちろん
洋服や木材も
ずっと大事に



Matsui Tsuyoshi
松居 剛志

● 前川建築 工務部 係長

私が大切にしているのは、家族との時間。誕生日会やクリスマスパーティーは欠かせません。誕生会では景品を用意してゲームを楽しんでいます。今年1月からセセイインコのソラを飼い始め、家族が増えました。朝起きたらソラに挨拶するのが家族の日課になっています。仕事では現場管理を務めています。休日もアウトドア派。家族で海釣りやボーリング、スキーに出かけることが多いですね。これからは建築に携わる全員が満足できる家づくりを目指しながら、次女の大学授業料の支払いも頑張っていきたいです。



お気に入り

原付バイクから始まり、今は1300ccのホンダX4にハマっています。能登半島一周や高山方面のツーリングコースなどを走りましたが、スピード感と音がたまりません。

家族の時間も
ひとりの時間も
ちゃんと大切に



編集後記

3月から広報部に新しい仲間が入りました。久田 裕里佳(ひさだ ゆりか)さんです。保育士の資格やベビーマッサージの資格も持っており、とても頼もしい存在。これから一緒に様々なイベントを企画していきます。その際にお会いする機会があるかと思うますので、どうぞよろしくお願いいたします。



m a e n o h a 2023 初夏号

2023年5月1日発行

企画・取材・文／まえのは編集部

編集／河岸 素子

写真／松井 洋貴

イラストレーション／おざわ さよこ

エディトリアルデザイン／ワークス

発行／MAEKAWAグループ

〒930-3221 富山県中新川郡立山町四谷尾691-4

Tel: 076-462-0611

<https://maekawa-kenchiku.com/>



表紙写真：板はしさんが毎朝の仕入れをする魚津漁港。富山湾のめぐみに溢れている。